

主題名 家族への感謝

資料名 きつねとぶどう（みんなのどうとく「学研」）

主題について

学級の子どもたちは、2年生になって学校生活にも慣れ、さまざまな活動においても積極的に行動する姿が見受けられるようになってきている。特に、初めて「1年生」という下級生ができたこともあり、一緒に遊んだりお世話したりするなど、お兄さん・お姉さんらしくふるまおうとはりきっている子どもが多い。

しかし、身近な家族が自分のために食事や身の回りのお世話をしてくれていることや、安全に過ごせるように見守ってくれていることを「有り難い」と感じながら生活している子どもは少ない。また、学校生活では6年生が毎朝学校を掃除してくれたり、用務員さんが校舎を修繕してくれたりする姿を見て、自分たちのためにお世話をしてくれる人々に対してお礼の言葉をかける場面もあまり見られず、中には、自分がお世話をしてもらっていても更にわがままな言動や行動をとってしまう子どもも見られる。このことは、この時期の子どもたちの自己中心性が強いことや、身近な家族に支えてもらったことに対して感謝することの重要性に気付かないで生活していることや、自分たちが上級生や学校の先生、地域の人々に支えられているということ意識しないで生活していることが原因であると考え。

そこで、このような子どもたちの価値意識を高め、明るく楽しい生活を送るためには、まず子どもたちにとって最も身近な家族の愛情に気付くこと、また、そういった人々に支えられて自分が存在しているという認識をもつこと、そしてそのような支えをしてくれる人々に対する尊敬と感謝の念を持つことが大切であると考え。このことを念頭におきながら、身近で日頃お世話になっている人々の愛情に気付き、感謝しようとする気持ちを高めて行きたい。

本時の授業では、これまで自分たちがどんな人にお世話になっているかアンケート調査をして児童の実態を把握し、話し合い活動に取り入れて問題を把握させていきたい。また、登場人物の気持ちについてこれまでの自分の体験をもとにしながら語ったり、子ぎつねの気持ちを話し合わせたりすることで、より高い価値へと変容させていきたい。そのために、次のような手立てを講じていく。

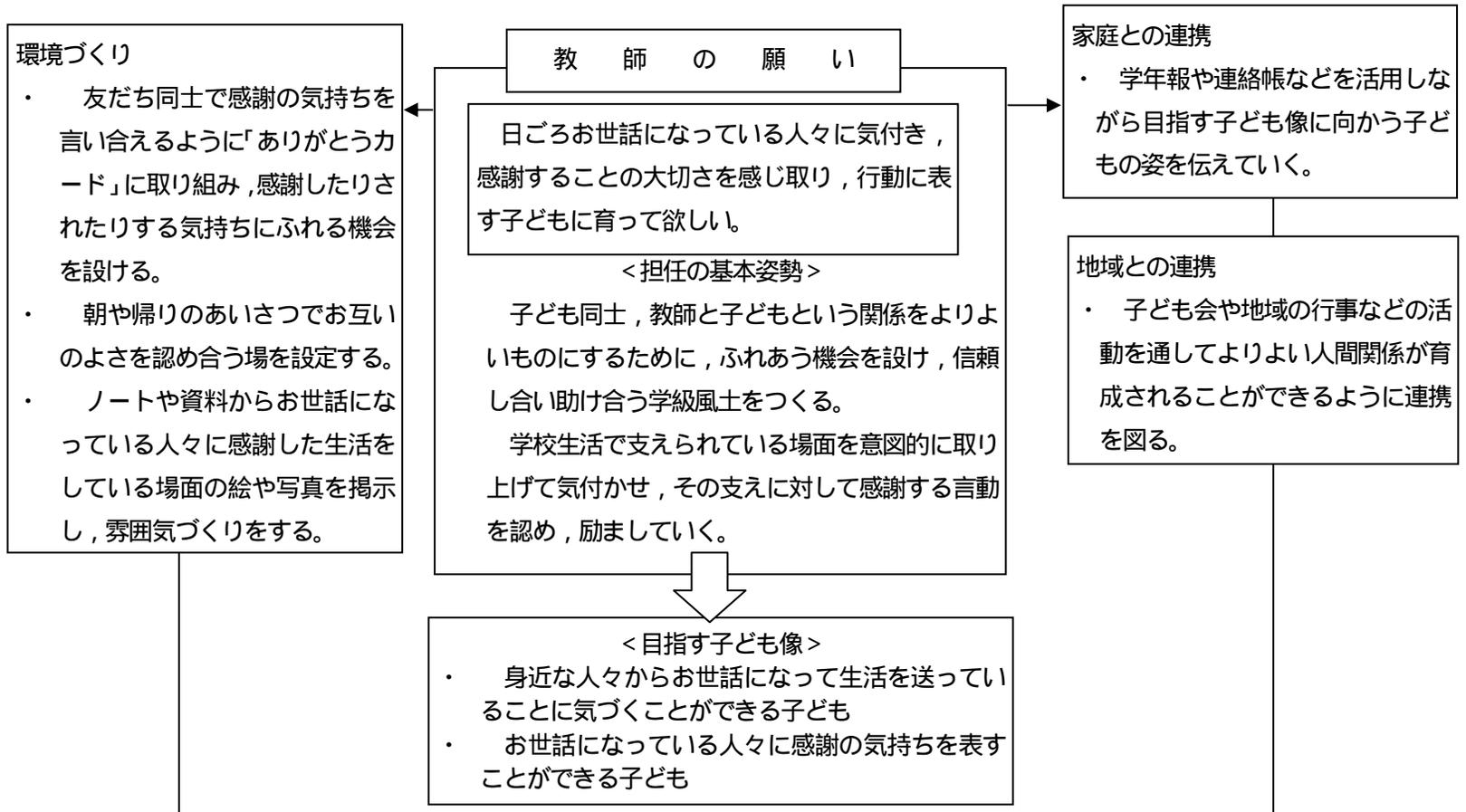
- ・ 導入場面での話し合いを深め、価値についてしっかり意識付けさせるために、事前にアンケートをとる。また、そのアンケート結果から、児童一人一人が本時の価値についてどう捉えているのか把握し、導入の話し合い活動に生かす。さらに、最後の主体化の場面で最初の価値との変容が感じられるようにアンケート調査を生かす発問をする。（手立て1）
- ・ 価値感得理解の場面で、子ぎつねが親ぎつねの献身的な愛情に気付いた時の気持ちについて子どもたちから同じような気持ちになったことはないかを発表させ、これまでの自分が経験してきたことを話し合わせる。本時で深めてきた感謝について、発表者が自分の気持ちを具体的に伝えたり、聞く側が発表者の考えについて、自分なりの考えを持つようにしたりしながら、気持ちを明確に理解できるようにし、話し合いを深めさせる。（手立て2）

低学年の指導項目2 - (4)は、「日ごろ世話になっている人々に感謝する。」となっている。「日ごろお世話になっている人」とは自分の衣・食・住その他様々な場面で身の回りの面倒を見てくれる家族、学校生活で支えてくれる上級生や教職員、登下校や行事等でお世話して下さる地域の人々と考える。人は一人では生きて行けず、互いに支え、支えられ、協力し合いながら様々なものとかかわり合って生きている。低学年の子どもたちはとかく利己的で、権利を主張したり、他人に対し不平や不満、非難をするが、それでは心も人間関係も豊かにならない。人は多くの人々の有形・無形の援助や協力によって人間として生きていくことができるのであり、他人が自分のためにしてくれた思いやりや様々な好意・親切にふれた時、自ずとわいてくる素朴な心情が感謝の心へと育っていくものである。

本資料は、子を思う母ぎつねと母に対する子ぎつねの気持ちを描いた作品である。おなかをすかせて鳴いている子ぎつねのために母ぎつねは、いくつもの山を越えてぶどうを採りに行く。しかし、巣の近くまで来て休んでいるときに猟師がやってきて愛する子ぎつねに危険が降りかかってしまう。子ぎつねにおいしいものを食べさせてあげたいとえさをとりに行く親ぎつねの思い、自分を犠牲にしてまで命を救ってくれた母ぎつねに気付き、子ぎつねが感謝の気持ちをこめて母ぎつねに呼びかけるときの気持ちを話し合うことは、子どもたちが母ぎつね、子ぎつねの気持ちに共感しながら身近でお世話してくれる人の愛情に気付き、感謝しようとする心情を感得することのできる適切な資料であると考え。

指導の構想

「日ごろお世話になっている人々に感謝しようとする心」を育てる学級における指導の構想図



月	学級活動・体験的活動	道徳の時間	各教科の学習	日常指導・その他
	(学) 学級活動 (行) 学校・児童会行事 (体) 体験的な活動	尊敬・感謝に関する主題を重点的に行う。	左記の道徳の時間にかかわりのある学習と関連を図る。 (体) 体験的な活動	子どもの実態に即し、継続的な指導を図る。
四月	「1年生を迎える朝会」(行) 1年生をあたたかく迎えるとともに、他学年の思いやりにふれ、感謝した学校生活を送ろうとする意欲を高める。	「きつねとぶどう」(6月) 尊敬・感謝 身近でお世話してくれる人の愛情に気付き、感謝しようとする心情を育てる。<家族に対する感謝>	生活(体) 「とびだせ仁王たんけんたい」 学区探検で引率してくれた学習ボランティアのおうちの方々に感謝の手紙を書くことができる。	子どもたちがすすんで思いやりのある行動ができるように働きかけたり、よい行いをした子を教師が紹介したりする。
五月				
六月				朝や帰りの会で友達にしてもらってうれしかったことを発表させ、みんなで認め合えるようにさせる。
七月	「1学期まとめ集会をしよう」(学) 1学期お世話になった人々に感謝し、ありがとうの気持ちを伝える。	「ふえをふいて」(10月) 尊敬・感謝 お世話になっている人々に感謝の気持ちを持って接しようとする心情を育てる。 <家族以外の身近な人に対する感謝>	生活(体) 「とびだせ仁王たんけんたい」 盛岡駅で働く人や利用する人々の様子を知り、マナーや安全に気をつけて利用することができる。	教師が子どもたちとともに活動しながら、お世話になっている人に感謝しようとする心情を深めさせるようにする。
九月	「教生の先生とお別れ会をしよう」(学) お世話になった教生の先生に感謝し、ありがとうの気持ちを伝える。			
十月			国語 「サゴの海の生き物たち」 生き物たちが互いに役立っていることを、事柄の順序を考えながら読む。	学級の子どもたち全員のかかわりが深まるように運動時間に意図的にみんなで遊ぶ日を見つけ、活動させる。
十一月	「給食室の先生方に感謝の気持ちをとどけよう」(学) 給食室の先生方の苦勞を知り、日々の仕事に感謝しながらありがとうの気持ちを伝える。			
十二月			生活 「かぞくっていいな」 一人一人に大切な家族があることや自分は家族に支えられて生活していることに気づくことができる。	教室掲示の中に、「感謝の木」を作り、子どもたちの感謝の輪が広がるようにする。
一月	「6年生に感謝の気持ちを伝えよう」(学) お世話になった6年生に感謝し、ありがとうの気持ちを伝える。			
二月			生活 「3年生ヘジャンプ」 自分の成長を振り返って喜ぶとともに、大きく成長した自分や支えてくれた人々がいることに気づくことができる。	家庭との連携を密にしたり、他の職員と情報交換を密にしたりするなどし、児童一人一人の実態把握に努める。
三月	「進級を祝う会」(学) 1年間の成長を発表するとともに、これまでお世話になった人々に感謝し、ありがとうの気持ちを伝える。	「ごほうび」(3月) 尊敬・感謝 日ごろ自分たちの世話してくれる人々に対して感謝する心情を育てる。 <地域の人々に対する感謝>		

本時の指導

1 ねらい

身近でお世話してくれる人々の愛情に気付き，感謝しようとする心情を育てる。

2 展開の概要

	学習活動と主な発問	予想される児童の発言や心の動き (:研究にかかわる発問)	指導上の留意点
問 題 の 把 握	<p>1 お世話になっている人について話し合い，その時の気持ちを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>家の人にしてもらっていることにどんなことがありますか。 お世話になった時にはどんな気持ちでしたか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんに食事を作ってもらっている。うれしい。 ・ 家の人に旅行に連れて行ってもらった。楽しかった。 ・ 先生に勉強を教えてもらっている。勉強が分かってうれしい。 ・ 交通指導員さんが横断歩道を渡らせてくれる。ありがとうと言いたくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 価値についての話し合いが行われるように，事前アンケートをとり，お世話になっている人やお世話になったときの気持ちを発表させる。(研究の手立て1) ・ 多くの人々が自分たちの生活にかかわっていることに気づかせ，価値への導入を図る。 ・ 感想をもとに本時のねらいへの方向付けを図る。
	<p>2 資料を読んで感想を発表し，話し合いの方向をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ぶどうがなっているわけが分かったとき，子ぎつねはどんな気持ちだったか考えていきましょう。</p> </div>		
問 題 の 分 析 ・ 追 求	<p>3 ぶどうを採りに行く親ぎつねの気持ちについて話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>親ぎつねはどんな気持ちでぶどうを採りに行ったのでしょうか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ぎつねがおなかがすいているからおいしいものを取ってこよう。 ・ できるだけ早く戻ってきて子ぎつねにおいしいものを食べさせてあげたい。 ・ いくつもの山を越えるのは大変だけど，かわいい子ぎつねのためにおいしいものをとってこよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 親ぎつねの子ぎつねを思う気持ちに気づかせるため，いくつもの山を越えて一生懸命かけているという場面状況についてペープサートを使いながらしっかりとおさえる。

<p>価値の感得・理解</p>	<p>4 子ぎつねを守ろうとして大声で叫んだ時の親ぎつねの気持ちについて話し合う。</p> <div data-bbox="276 378 768 535" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大声でさげんだ時、親ぎつねはどんな気持ちだったでしょう。</p> </div> <p>5 巣の近くにぶどうがなっているわけに気づいた時の子ぎつねの気持ちについて話し合う。</p> <div data-bbox="251 880 768 1064" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ぶどうがなっているわけが分かった時の子ぎつねの気持ちになって吹き出しに書いてみましょう。</p> </div> <div data-bbox="251 1264 768 1385" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>子ぎつねと同じような気持ちになったことはありませんか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ぎつねが大変だ。 ・ 早く逃げて。 ・ 自分はどうなってもいいから子ぎつねを助けなくては。 ・ 自分のためにお母さんがぶどうを取ってきてくれたんだ。 ・ 自分を守るためにお母さんは猟師に撃たれてしまったんだ、悲しい。 ・ お母さん、ありがとう。 ・ ぼくのためにいろいろしてくれたお母さんはすごい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 猟師や犬を恐れず自分が犠牲になっても子ぎつねを助けようとする親ぎつねの思いについて理解させたい。 ・ ペープサートを活用して親ぎつねの思いを共感的に分かり合うようにさせる。 ・ 「お母さん、お母さん。」に続く言葉を考えさせることで、母親への感謝の気持ちを理解させる。 ・ プリントの吹き出しに記述させることにより、親ぎつねの深い愛情に気づき、心から感謝している子ぎつねの気持ちに迫っていく。 ・ 子ぎつねと同じ気持ちになった経験を語らせることにより、感謝の気持ちにをより身近な物として深く感じ取らせる。 (研究の手立て2) ・ 初めの意識と価値の変容の場面での意識との違いを明確にさせる。
	<p>価値の主体化</p>	<p>6 自分がお世話になっている人たちの気持ちについて話し合う。</p> <div data-bbox="276 1767 768 1915" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>家族はどんな気持ちでお世話してくれていると思いますか。</p> </div> <p>7 教師の話を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんは自分が元気にくらせるように食事を作ってくれていると思う。 ・ お父さんは私が楽しい思いをするようにいろいろな所に連れて行ってくれていると思う。 ・ おばあちゃんは、ぼくにいろいろなことを教えようとしていろいろ昔のことを教えてくれたりしていると思う。